

令和6年度認定地域特産物マイスター認定者

令和6年12月20日

公益財団法人日本特産農産物協会

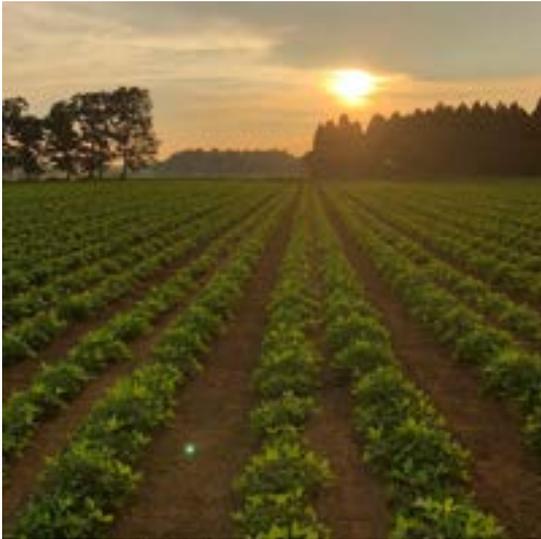
No.	氏名	生年	都道府県	市町村	申請品目	推薦機関
1	ちば はつきち 千葉 初吉	昭和 24年生	福島県	三春町	ブルーベリー	田村農業普及所
2	ますだ きょうすけ 増田 京輔	昭和 47年生	千葉県	八街市	落花生	八街市
3	かとう ひろし 加藤 洋	昭和 50年生	神奈川県	山北町	茶（足柄茶）	かながわ西湘農業協同組合
4	ながおか ひろあき 長岡 洋明	昭和 31年生	山梨県	上野原市	上野原せいだ芋 （上野原産ジャガイモ）	上野原市
5	くまがい みさこ 熊谷美沙子	昭和 44年生	長野県	天龍村	手揉み茶	長野県南信州農業農村支援センター
6	もちき ゆきみ 餅木 幸美	昭和 40年生	石川県	野々市市	石川県の単花蜜 （里山の花木、農作物）	石川県石川農林事務所
7	しもむら けんじ 下村 堅二	昭和 42年生	愛知県	西尾市	きゅうり（三河みどり）	西三河農業協同組合
8	ほしの かつみ 星野 勝美	昭和 45年生	愛知県	西尾市	てん茶	西尾市
9	やまもと ひでき 山本 秀喜	昭和 34年生	滋賀県	日野町	日野菜	日野町
10	ほそみ まさかず 細見 昌一	昭和 26年生	京都府	福知山市	丹波くり	福知山市

（敬称略）

令和6年度		
氏名	ちば はつきち 千葉 初吉	
生年	昭和24年生	
住所	福島県三春町	
品目	ブルーベリー <ul style="list-style-type: none"> ・福島県三春町では、農業経営の安定と耕作放棄地解消対策の一環として、平成12年頃からブルーベリー栽培を開始 ・三春町の小学生の副読本にブルーベリーを特産品として掲載。子供達の認知度も高まっている。 ・町、三春まちづくり公社、みはる観光協会が連携し、「ブルーベリーの里 三春」のPRのため、三春町ブルーベリー観光農園ガイドマップを作成 ・町、三春ブルーベリー倶楽部、地元の高校生、老舗菓子店が連携し、ブルーベリーを使用したスイーツを開発し販売（三春町みらい創世課プロジェクト） ・令和3年度からは、三春町のふるさと納税の返礼品として採用 	
技術	来園者に癒やしを提供する観光農園経営、品種特性を踏まえた加工品を提供 <ul style="list-style-type: none"> ・平成15年にブルーベリー栽培を開始し、令和元年からはブルーベリー単一経営農家。ハイブッシュ系及びラビットアイ系36品種を6ほ場で栽培 ・品種特性（果実の大きさ、収穫の早晚性、食味（甘さ、酸味）、栽培のしやすさ等）を開園当初より研究 ・摘み取り園向け以外に、加工に向けた酸味の多い品種も選定し栽培 ・ブルーベリージャム、ブルーベリー果汁入り飲料、ブルーベリー葉茶、生果実、冷凍果実も販売 ・ほ場の乾燥対策として、樹幹下のみに樹皮マルチを敷設。通路は草生とし、省力的な管理を実施 ・摘み取り園の来園者に癒やしの空間を提供するため、ラベンダーを植栽。通路にヒノキのチップを敷設。ほ場周辺に花モモやツツジを植栽し、回廊式の庭も開設 ・平成30年 日本ブルーベリー協会「ブルーベリー栽培士」認定 	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・三春ブルーベリー倶楽部の会長（現在は顧問）として、三春町のブルーベリー農園全体としての活動を実施 <ul style="list-style-type: none"> 三春町の幼稚園児、小学生の摘み取り体験、中学生の職場見学授業としての管理作業体験の実施 三春町の小中学校の給食へのブルーベリーの提供、食育の出前講座の実施 ・令和3年には、ふるさと納税の返礼品として採用 ・年に3名のブルーベリーの技術指導（オンラインを含む）を実施（令和6年には、北海道、福島県、宮城県） 	
相談に 応じられる 分野・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーベリー栽培全般に関すること（品種の選定、植え付け、せん定、施肥、収穫、接ぎ木） 	
受賞歴等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年 豊かなむらづくり顕彰事業（農業生産部門、三春ブルーベリー倶楽部） ・平成29年 三春町各種功労者表彰（三春ブルーベリー倶楽部） 	
主な役職	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年～令和元年 三春ブルーベリー倶楽部会長 ・令和元年～現在 三春ブルーベリー倶楽部顧問 ・平成28年～現在 日本ブルーベリー協会総代 	
H P	http://www.kaoru-blueberryen.com（かおるブルーベリー園）	



令和6年度		
氏名	ますだ きょうすけ 増田 京輔	
生年	昭和47年生	
住所	千葉県八街市	
品目	落花生 <ul style="list-style-type: none"> 千葉県の落花生栽培面積は、全国の8割を占める 八街市は、昭和62年に優良特産落花生推奨協議会を設立し、「千葉半立」を推奨品種として位置付け、「推奨マーク」によりブランド化 平成19年度には「八街産落花生」を地域ブランドとして商標登録 毎年9月に「やちまた落花生まつり」を開催 	
技術	研究機関・農機具店と共同した落花生の省力生産技術の導入 <ul style="list-style-type: none"> 落花生栽培の研究部門として平成21年の就農以来、栽培経験を積み、平成27年からは他の農業者への労働力提供、農業機械の貸し出しを実施するまでに事業が発展 千葉県農林総合研究センターの研究に協力し、実証試験結果に基づく、省力化技術（同時穴あけシーダーマルチャー、播種機、同時施肥機、簡易乾燥装置）の普及に貢献 千葉県新品種「Q なっつ」普及のため、地元農機具店と共同で、根切り機の改良、作業方法の確立に貢献 多数の八街産落花生農家から集荷し、製造加工、販売している事業に、栽培部門が関わったことにより、落花生を総合的に捉える体制を構築、地元農家に情報提供し、さらなる連携を構築 	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年以降、農場見学・校外学習・栽培状況視察、落花生栽培試験・研究ほ場の提供を積極的に実施 （農場見学・校外学習・栽培状況視察対応） ✓ 取材対応：大学及び大学院 ✓ 工場・農場見学：アメリカピーナッツ協会、台湾の高校生 等 ✓ 農業体験：企業及び一般 ✓ 出前授業及び校外学習：地域の小学校（落花生栽培試験・研究ほ場の提供） ✓ 千葉県農林総合研究センター畑地利用研究室、落花生研究室 ✓ 農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究センター 	
相談に 応じられる 分野・内容	<ul style="list-style-type: none"> 落花生栽培の一般的な方法の相談、指導 落花生栽培における省力化に関する相談、指導 地域の小中学生等に対する落花生の歴史、植物としての特徴等の講演、授業 特産物を通じた地域振興に関する講演等 	
受賞歴等		
主な役職	令和2年～現在 有限会社ますだ 代表取締役社長	
H P	https://www.masuda-shop.co.jp （ますだの落花生）	



「O なっつ」用に改良した根切り機



落花生の自動拾い上げ機



考案した落花生の簡易乾燥装置



令和6年度		
氏名	かとう ひろし 加藤 洋	
生年	昭和50年生	
住所	神奈川県山北町	
品目	茶（足柄茶） <ul style="list-style-type: none"> 山北町川西では、関東大震災の復興のため、静岡県から茶の栽培を導入 丹沢箱根山麓の霧深い気候、水に恵まれた風土により良質な茶が栽培され、浅蒸し製法により針のように細くよれたお茶は「味と香りの足柄茶」との別名も 神奈川県内で生産された荒茶は、(株)神奈川県農協茶業センターに集荷され、二次加工、パッケージングを経て、「足柄茶」という統一ブランドで販売 平成19年には、地域団体商標に「足柄茶」を登録 	
技術	官能検査等を徹底し、足柄茶のブランド価値を守り続ける <ul style="list-style-type: none"> 集荷された荒茶の優劣、産地の特徴、欠点などを見分ける官能検査技術 伝統を継承する仕上げ加工と火入れ技術 仕上げ茶のブレンド技術及び製品化のための均一化技術 	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> 若手社員に対する荒茶の官能検査技術の指導 仕上げ加工、火入れ技術及びブレンド技術の伝承 荒茶入荷時の審査内容を生産者にフィードバックし良質茶の生産を促進 遠赤外分析法をはじめとする化学分析法を用いて、新しいお茶のブレンド技術、火入れ技術を模索 (株)神奈川県農協茶業センター茶園の管理 	
相談に 応じられる 分野・内容	<ul style="list-style-type: none"> お茶の淹れ方、官能試験方法 ホットプレートでのお茶づくり 茶摘み 足柄茶の歴史 	
受賞歴等		
主な役職	令和4年4月～現在 (株)神奈川県農協茶業センター 業務統括	
H P	https://www.ashigaracha.co.jp/ (株)神奈川県農協茶業センター	



令和6年度		
氏名	ながおか ひろあき 長岡 洋明	
生年	昭和31年生	
住所	山梨県上野原市	
品目	上野原せいだ芋（上野原産ジャガイモ） <ul style="list-style-type: none"> ・天明の大飢饉の際に、甲州代官（中井清太夫）が長崎から取り寄せたジャガイモ栽培が奨励され、多くの人々が飢死の危機から救われた。上野原の人々は、感謝を込めて、ジャガイモを「清太夫芋」、「せいだ芋」と呼称。 ・小粒のジャガイモ（通称：たまじ）を利用した市の郷土料理「せいだのたまじ」は、山梨県の「特選やまなしの食」に選定 ・「せいだのたまじ」は学校給食にも組み込まれ、「せいだ芋」の歴史と物語が描かれた「せいだイモのはなし」は、県内・市内の学校の学習教材 	
技術	地域の伝統的ジャガイモ栽培の継承・地域ブランド化、六次産業化支援 <ul style="list-style-type: none"> ・100年以上「せいだ芋」栽培が引き継がれてきたほ場を先代（第三代）から平成21年に継承し、「せいだ芋」の栽培を開始 ・令和2年には、「せいだ芋」の栽培促進グループ「上野原せいだプラント」を発足し、代表に就任 	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「上野原せいだ芋」の統一したブランドイメージの構築（商品ロゴ等の開発、ブランド管理と周知活動） <ul style="list-style-type: none"> ✓ 収量安定と品質確保のため、栽培工程表と出荷規格表を作成し、生産者に配布 ✓ 「せいだ芋」の歴史と文化資料を作成し、市のHP等で公表 ✓ 品質安定化に向けて市内の複数ほ場の土壌や「せいだ芋」の成分分析を実施 ✓ 故郷の物語と美味しさを届けるため、企業と共同して、「せいだ芋のポテトフライ」を開発、本格焼酎「芋大明神」の開発、販売 ・ブランド化に関する視察等を積極的に受入（特許庁、経済産業省、JETRO、山梨大学六次産業コーディネーター） ・「上野原市ふるさと納税特産品開発事業」、「2024年度輸出プロモーター事業」（JETRO）における、商品開発、販路開拓の助言、指導 	
相談に 応じられる 分野・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ブランド構築 ・特産品の開発 ・販路開発支援 	
受賞歴等		
主な役職	平成21年～現在 近江屋ながおか 代表 平成25年～現在 甲州芋大明神奉賛会 幹事 令和2年～現在 上野原せいだプラント代表	
HP	https://om-nagaoka.com/ （近江屋 ながおか）	



上野原せいだ芋（上野原産ジャガイモ）



上野原せいだ芋の栽培風景



郷土料理「せいだのたまじ」



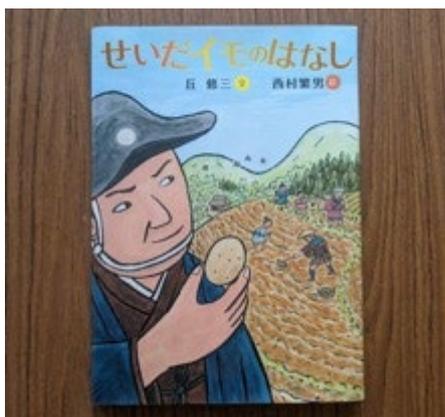
市内に祀られるジャガイモの神様「芋大明神」



特産物①：「本格焼酎 芋大明神」



特産物②：「せいだ芋のポテトフライ」

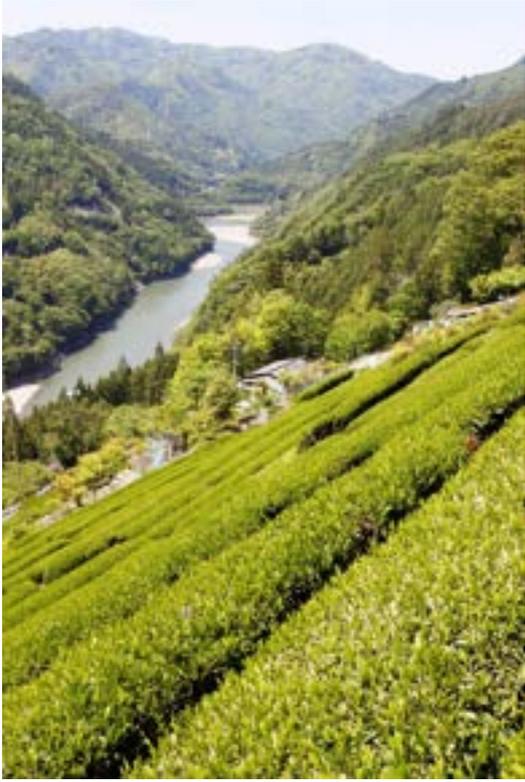


絵本「せいだイモのはなし」



栽培推進団体「上野原せいだプラント」

令和6年度		
氏名	くまがい みさこ 熊谷 美沙子	
生年	昭和44年生	
住所	長野県天龍村	
品目	手揉み茶 <ul style="list-style-type: none"> 天龍村は、気温の日較差が大きく、日照時間は長いが直射日光は少なく、川霧により湿度が高いこと等により、茶の栽培にとっては優れた環境 茶園のほとんどが急傾斜地であること、生産者の高齢化により、生産量は年々減少 長野県では、昭和40年、南信州地域などで生産される特産としての茶の安定生産や茶文化の継承と地域の財産である茶畑の美しい景観の維持を目的として、「長野県茶振興協議会」を設立し茶産地を支援 平成16年に「長野県南信州茶手揉み保存会」が設立され、一旦は途絶えた手揉み茶の再興及び地域の茶文化の振興活動に取組 	
技術	地域の茶葉の特性を踏まえた手揉み茶技術の継承と地域振興に向けた活用 <ul style="list-style-type: none"> 凍霜害の影響を受けた不揃いの生葉や通常製茶されない硬葉を使用するため、茶葉の状態を確認しながら蒸し時間を工夫した、「若蒸し茶」技術が定着 平成15年に開催された手もみ茶講習会を機に、平成16年に「長野県南信州茶手揉み保存会」が設立され、平成24年からは理事に就任し、手揉み茶の魅力を発信 全国手もみ製茶技術資格「教師補」（平成19年） なお、南信濃製茶工場で工場長を務め、製茶作業技術を従業員に対し継承 	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、地元の小学校で、茶摘み、手揉み体験、新茶の試飲等を実施し、手もみ茶の文化及び技術を若い世代に伝える活動を実施 お茶に対して興味を持ってもらうため、各種のイベントにおいて、要請に応じて手もみ体験等を実施 自身が営む宿泊施設では、宿泊客向けに手揉み茶の体験を実施 	
相談に応じられる分野・内容	<ul style="list-style-type: none"> 若蒸し茶の製茶技術 手揉み茶の実演・指導 子供向け手揉み指導 	
受賞歴等	平成22年2月 「農林漁家民宿おかあさん100選」に認定（宿で手揉み茶を振る舞う） 平成25年度 農山漁村男女共同参画優良活動表彰 農林水産副大臣賞（次代を担う若手地域リーダー部門 地域参画部門）	
主な役職	平成24年～現在 全国手もみ茶振興会 長野県理事 令和5年～現在 みなみ信州農業協同組合 南信濃製茶工場 工場長	
HP		



令和6年度		
氏名	もちき ゆきみ 餅木 幸美	
生年	昭和40年生	
住所	石川県野々市市	
品目	石川県の単花蜜（里山の花木、農作物） <ul style="list-style-type: none"> ・ 金沢市近郊の内灘砂丘地では、砂防と防風を目的とした海岸林として昭和30年代から植林が進められたニセアカシアや白山山麓のトチノキから採蜜されたはちみつが生産、販売。通常は、複数の花から採取された雑蜜または百花蜜として販売。 ・ 養蜂とともに自ら加工販売を手がけていることを活かして、金沢市内の里山の花木や能登の農作物など約10種類の花から採蜜したはちみつを、個性ある蜂蜜として単花蜜等として生産、販売（単花蜜は、一種類の蜜源植物の花由来の蜂蜜で、花の種類により風味が異なる） 	
技術	地域の作物を活かした単花蜜等の生産 <ul style="list-style-type: none"> ・ 蜜源植物、温度や湿度など気象条件を考慮した蜂蜜の採取日、巣房での熟成、濃縮の徹底等により風味の異なる多種の単花蜜を生産 ・ 併せて、積雪地域である北陸でのミツバチの越冬、ダニ類防除などに腐心 ・ 令和4年～石川県立大学と共同でさつまいもからも採蜜を生産、販売 ✓ 里山の花木：アカシア、卯木、熊野水木、烏山椒、百花（雑蜜） ✓ 農作物：すいか、最勝柿、能登栗、かぼちゃ、さつまいも 	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成25年に実父と共同して養蜂業を開始し、翌年には蜂蜜加工販売店「しずく工房」を創業 ・ しずく工房の蜂蜜は、平成27年に「石川ブランド製品」認定、令和5年には「野々市ブランド」認定 ・ 令和3年より、地元中学校や公民館で養蜂や蜂蜜に関する講義を実施 ・ 令和4年より、石川県立大学、北陸学院大学で蜂蜜ゼミを実施 ・ 令和3年より、SNS（ユーチューブ等）で情報発信（動画投稿） 	
相談に 応じられる 分野・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蜂蜜採取、製造 ・ 蜂蜜を使った菓子などの商品開発 ・ 蜂蜜、ミツバチを材料とした食育 	
受賞歴等	平成28年 はちみつマイスター（（一社）日本はちみつマイスター協会）	
主な役職	平成26年～現在 しずく工房代表	
H P	http://www.shizuku-kobo.com （しずく工房）	



左から柿（能登柿）、栗、すいかの単花蜜



さつまいもの単花蜜とさつまいもの花



養蜂様子



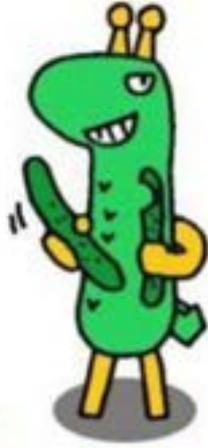
蜂場視察様子



ミツロウクリーム作り指導様子

令和 6 年度		
氏 名	しもむら けんじ 下村 堅二	
生 年	昭和 42 年生	
住 所	愛知県西尾市	
品 目	きゅうり（三河みどり） <ul style="list-style-type: none"> 西尾市一色地区は昭和 30 年代からのハウスきゅうり産地。一時期は単価の低迷、選果機の老朽化により、離農も相次いだ。平成 12 年頃より JA 中心に組織改革 平成 17 年度、トレーサビリティ機能などを組み込んだオリジナル選果機を導入。平成 27 年度から、ICT ツールの活用が始まり、栽培知識の共有と見える化・ノウハウ化により、単収は向上し、全国的にも高い技術力を誇る先進産地へと成長し、若手の新規就農者も参入 共販組織「西三河冬春きゅうり部会」は、地域のきゅうりを「三河みどり」のブランド名で県内中心に出荷。「良いきゅうりの日」（4 月 19 日）の制定、キャラクター「きゅりん。」や SNS の活用、イベント出展、出前授業等に取り組む 	
技 術	工学知識を活かしたスマート農業、データ駆動型経営の推進 <ul style="list-style-type: none"> 平成 12 年に新規就農。エンジニアとしての民間企業でのシステム設計の経験を活かし、効率を追求した新たな選果機を企画提案し、新たな選果機導入につなげる（新たな選果機では、氏の発明で特許出願（平成 24 年：JA 西三河、ヤンマー（株）が連名で特許取得）） 国のスマート農業実証プロジェクトで、生産から販売まで一貫した実証栽培 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 養液栽培での地上部・地下部の環境データや生態情報データの収集・統合環境技術のプログラムの改良 ✓ 出荷量の予測・物流の効率化・効率的な販売の実証試験 ✓ いちごのスマート農業技術実証プロジェクトにもアドバイス役として参画 農業用 ICT 技術の導入を率先して行い、部会員への普及、指導、定着に努め、データ駆動型のきゅうり栽培を実現 	
活 動 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 農業用 ICT ツール、スマート農業の経験を踏まえ、国、県及び研究機関等の講演会での講師活動、県内外からの行政、生産者団体等による視察の受入れ 令和 2 年、JA 全中等主催「食料フォーラム 2020」の「農業の未来 未来の農業 ～スマート農業を考える～」にパネリストとして参加 農林水産省の「スマート農業実証プロジェクト」への参画 	
相 談 に 応 じ ら れ る 分 野 ・ 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ICT を活用したスマート農業機器と植物生理を絡めた栽培技術の指導 データ駆動型農業の実践体勢づくりの支援 選果機・栽培周辺機器の開発支援 	
受 賞 歴 等	平成 21 年 第 58 回全国農業コンクール 優秀賞（きゅうり部会） 平成 26 年 第 43 回日本農業賞 集団組織の部（きゅうり部会） 令和 5 年 愛知農業賞（あいちアグリアワード）技術改善部門（個人）	
主 な 役 職	平成 18 年～平成 24 年 JA 西三河きゅうり部会 選果委員会委員 平成 26 年～平成 27 年 // 選果委員会委員長 平成 27 年～令和 4 年 // 改革プロジェクトサブリーダー 令和 2 年～現在 // 次世代選果機調査会委員 令和 5 年～現在 // 改革プロジェクトリーダー	
H P		

たべりん。



令和 6 年度		
氏 名	ほしの かつみ 星野 勝美	
生 年	昭和 45 年生	
住 所	愛知県西尾市	
品 目	<p>てん茶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 摘採期前に茶園を被覆資材で覆った「覆下茶園」から摘採した茶葉を蒸熱し、揉まずに、てん茶炉等で乾燥させて製造。てん茶を茶臼等で微粉末状に製造したものが「抹茶」 ・ 「西尾の抹茶」（地域団体商標、平成 21 年）の起源は鎌倉時代に遡り、明治時代に宇治から茶種と製茶技術を導入、大正時代に生産が本格化、現在では稲荷山付近の 200ha の茶園の大半がてん茶 ・ 遮光栽培で生産された茶葉を三河式碾茶乾燥炉で乾燥して抹茶に加工することにより、鮮やかな深緑色の外観と上品な香り、渋味が少ないのが特徴 ・ 西尾の抹茶を生産農家と販売卸業者が一丸となって世界に PR・輸出 	
技 術	<p>適期摘採など茶品質を考慮した栽培管理、輸出に向けた減農薬栽培の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 20 年に親元就農した後、適期摘採や作業効率向上に向けて、棚下用乗用型摘採機を導入し、経営面積を拡大（2.6ha から 4.0ha へ） ・ 海外輸出に向けた減農薬栽培（農薬散布回数の削減、交信攪乱剤の導入など） ・ 棚被覆を中心に優先品種への改植 ・ 愛知県や京都府の試験場で開発された技術を基本に、自園での実証を踏まえ、適切な被覆資材や被覆時期の設定などを工夫 	
活 動 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛知県茶業連合会の副会長として、県全体の技術向上に向けて、品評会茶を中心に、若手生産者に技術指導 ・ 地元小学校の茶園管理担当教員に対する技術指導 ・ 学校教育の場での茶を活用した食育 	
相 談 に 応 じ ら れ る 分 野 ・ 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ てん茶栽培における被覆資材と被覆方法、被覆時期等の栽培管理 ・ 肥料の効率的な施用方法 ・ 伝統的な茶摘み方法 	
受 賞 歴 等	平成 29 年度 農業経営士 令和 5 年度 愛知県茶品評会てん茶の部 2 等・3 等入賞	
主 な 役 職	平成 26 年度～平成 31 年度 吉良茶業組合 副組合長 令和 2 年度～令和 5 年度 吉良茶業組合 組合長 令和 6 年度～現在 愛知県茶業連合会 副会長	
H P		



令和 6 年度		
氏 名	やまもと ひでき 山本 秀喜	
生 年	昭和 34 年生	
住 所	滋賀県日野町	
品 目	日野菜 <ul style="list-style-type: none"> 日野菜は、日野の地で発見された野生種を起源とし、江戸時代から漬物用野菜として知られるようになった。 昭和 10~40 年頃が日野菜生産の最盛期であったが、高齢化や生産管理の困難性、収益の悪化により、生産は減少。町内の漬物加工業者や種苗業者も廃業される中、令和 4 年には地理的表示制度に登録され、消費者や販売先等からニーズが高まっている。 日野町では、日野菜を「町の宝」と位置付け、日野菜振興に取り組み。JA グリーン近江や日野町商工会は、地域特産品として日野菜漬け以外の商品を開発 	
技 術	地域伝統野菜「日野菜」の継承・生産を支える規模拡大モデル農家 <ul style="list-style-type: none"> 共同播種機のオペレーターとして、日野菜栽培面積の約 50%の播種作業に従事 令和 6 年には、町内の日野菜栽培面積の約 1 割を占める規模（春作:20a、秋作:60a）。日野菜栽培の規模拡大モデル農家として、JA グリーン近江日野菜部会最大の栽培農家。 	
活 動 状 況	<ul style="list-style-type: none"> JA グリーン近江日野菜部会副会長として、日野菜栽培希望者への助言・指導併せて、経験の浅い農家への栽培指導を実施 日野菜の伝統を守るため、地元小学校への伝承活動を実施 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地元の小学校では、自らのほ場での日野菜の収穫体験 ✓ 近隣の小学校では、学校の農園での日野菜の栽培から収穫までの指導 	
相 談 に 応 じ ら れ る 分 野 ・ 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 日野菜振興に向けた行政支援 日野菜栽培の概要 子供向け「日野菜栽培」指導 日野菜の調理方法の紹介 	
受 賞 歴 等		
主 な 役 職	令和 4 年~現在 JA グリーン近江日野菜生産部会副会長	
H P	http://hinona.jp （日野菜のホームページ）	



令和 6 年度		
氏 名	ほそみ まさかず 細見 昌一	
生 年	昭和 26 年生	
住 所	京都府福知山市	
品 目	丹波くり <ul style="list-style-type: none"> ・ 「丹波くり」は、丹波地方で採れる栗。寒暖差の激しい気候を活かした大きな栗 ・ 古くは朝廷、江戸時代には幕府にも献上 ・ 栽培従事者の減少とともに、生産量は年々減少しているが、ブランド知名度は高く、高値で取り引きされている ・ 例年「福知山地方丹波くりまつり」が開催され、京都府内での品評会に出品された優良な「丹波くり」の販売や、栗加工品の販売などが行われ、地域を挙げてのイベントとなっている 	
技 術	数年後の樹形などを念頭に、様々な環境に応じた適切な栽培管理を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 9 年頃から栗栽培に従事、令和 2 年からは栗栽培に専念 ・ これまでの経験を活かし、栗の木の状況、生育環境を見た上で、数年後の樹形などを推測し、栽培方法を工夫・決定（整枝せん定、施肥、防除など） ・ 36a の栗園を経営（目標収穫量 1t、令和 4 年：500kg、令和 6 年 700kg） 	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府開催の丹波くり栽培における講習会では指導者として毎年参加（令和 4 年度から） ・ 中核的指導者のリーダーとして、定期的に意見交換会を開催（京都府内の丹波地域各地） 	
相談に 応じられる 分野・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丹波くり栽培の技術指導 	
受賞歴等	平成 28 年度 第 6 回福知山地方丹波くり振興会主催せん定コンクール最優秀賞 令和 5 年 京都府農山漁村伝承技能保持者登録	
主な役職	令和 4 年～現在 京都丹の国農業協同組合三和くり部会 部会長 令和 6 年～現在 福知山地方丹波くり振興会 会長	
H P		

